

2021年度 日本工学院専門学校											
コンサートイベント科											
コンサートプロダクト3（制作）											
対象	2 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	270	単位	9
担当教員	富樫 咲子			実務経験	有	職種	コンサート制作、コンサートプロモーター				
授業概要											
多様化するコンサート・イベント業界に対応する為に、1年次に学んだコンサートの基本をより高度なものに高める。臨機応変な対応やトラブル対応など、実務として即戦力になれる力を身に着ける。コンサートの制作と運営の違いを学び、一つの公演を行うためにどれだけのスタッフが必要か、制作としての役割と運営としての役割を実際のコンサートを行いながら実践的に習得する。効果的な宣伝を行うにはどのようにしたら良いか、学校内はもちろん学校外での流行や動きを積極的にリサーチし、得たものを形にし実行する。チームごとの学習を多く取り入れ、自分が伝えたい事をより明確に相手に伝えるためにはどのようにしたら良いか、自分で考える事が習慣づくなるようになる。											
到達目標											
学校内での施設はもちろん、学校外の会場も使用し、1年次に培った経験を個々が活かし、円滑なコンサート運営を目標とする。ファンクラブ、グッズ、予算管理、チケット管理、客入れ客出しプラン作成、出演者とのやりとり、場内場外警備プラン作成、ロビー展開の考案、危機管理対策、コンサート運営に関するマニュアル作成とシミュレーション実施まで、チーム内で意見交換しながら作り上げていく。舞台・照明・PAなどテクニカルコースの学生を制作として統括するために、各セクションの役割を基礎実習で得た事を十分に活かしながら進行する。											
授業方法											
企業と手を組みながら、より本格的、多種多様なイベントへも参加し経験値を積む。 同時に複数のイベントを行い、より実務に近いカリキュラムを構築、実施。 学校外の会場を使用し、会場担当者との事前打ち合わせ等で得た情報を他コースへ共有し、情報共有の大切さを学ぶ。 コンサート制作コースの学生間、教員・講師との報連相を習慣づけ、コミュニケーション能力を身に着ける。											
成績評価方法											
授業出席率	50%	遅刻、早退、欠席を含む出席率で評価。									
提出課題	20%	春期課題、夏期課題提出と内容で評価する。									
小テスト	10%	担当した出演者名や会場名、公演コンセプトなど理解度を確認する為に抜き打ちで実施する。									
成果発表	20%	積極的な授業参加度、発表方法や内容・言葉遣いなどによって評価する。									
履修上の注意											
イベントやコンサートを行う際、一部の学生に作業と責任が集中することの無いよう、万遍なく学生を見る事を心がけ、偏りや最良が出ないよう配慮する。運営中、柵や看板など多くの備品を運ぶため、怪我をしないように十分注意する。音楽だけでなく演劇やフェスなど「エンターテイメント」全般の視劇や映像作品を鑑賞。PCで扱うイラストレーターも活用する。制作・運営の中でもどの職種をやりたいのかを明確にし、企業・組織で協働する事の重要性を理解できるようになることを目標とする。											
教科書教材											
ステージ・PA・照明用語辞典：毎回の授業で活用 オンライン授業動画：自宅での復習に活用											
回数	授業計画										
第1回	新入生歓迎ライブ（タイトル・コンセプト出し、公演概要書完成、チラシ・ポスターデザイン立案）										
第2回	新入生歓迎ライブ（客入れ客出し方法を現場で実際にシミュレーションを行なった上で決定）										
第3回	新入生歓迎ライブ（出演者用弁当を学校周辺やネット等で探して決定、ケータリング内容考案）										
第4回	新入生歓迎ライブ（場内警備・誘導方法を提案後、現場でシミュレーションを行い決定させる）										
第5回	新入生歓迎ライブ（電子チケット講座・配券講座受講、配布枚数・配布箇所を確認、チケット管理する）										
第6回	新入生歓迎ライブ（他コースとの打ち合わせを実施、確認と共有をしっかりと行う）										

2021年度 日本工学院専門学校	
コンサートイベント科	
コンサートプロダクト3（制作）	
第7回	資料作りに関して（マニュアル作りやアンサーシート等に必要な知識やスキルを学ぶ）
第8回	外部会場の使用方法・構造についての授業（ZeppHaneda・CLUB CITTA' など、会場の特性や運営方法・禁止事項を学ぶ）
第9回	サマーライブ（班分け・役割決め・タイトル/コンセプト/ロゴ考案・公演概要書完成・収支表作成）
第10回	サマーライブ（会場下見・運営方法決定、宣伝資料作成・宣伝場所出し）
第11回	サマーライブ（新歓ライブよりも個々のレベルを上げる、プロモーション強化）
第12回	サマーライブ（全体の動きを見ながら自分の動きを考える、入場料有料公演/配信ライブ・有観客での対応）
第13回	サマーライブ（制作・運営のシミュレーション、タイムテーブルに沿って動きを最終確認）
第14回	サマーライブ（イベント要素も取り入れ、ライブとは少し違う雰囲気の良い場面を作る）
第15回	サマーライブ（反省会・報告書作成、次の公演に向けてアイディア出し）

2021年度 日本工学院専門学校											
コンサートイベント科											
コンサートプロダクト3 (PA)											
対象	2 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	270	単位	9
担当教員	吉野雄一郎/小峰建			実務経験	有	職種	音響会社				
授業概要											
コンサートPAスタッフとしての必要な知識の理解をはじめ、仕込み作業をスピードアップさせPAチームとしてのワークスタイルを確立し、更なるミキシングテクニックを実践的に学ぶ。この科目を受講する学生は、コンサート・イベント業界の中が協働の場である事を理解し、これまでは経験した事が無い舞台業界で求められる技術、知識を理解できるようになる。舞台とは「総合芸術である」その舞台演出の中でも音という分野を担当するという事はどういう事なのかを理解する。舞台音響業界はどのような人材を求められているか、その為にはどのような知識が必要で、どのような人間であれば良いかを理解できる様になる。											
到達目標											
1 年次で得た技術、知識をもとに、即戦力となるPAスタッフを目指す実習である。この科目は、学生が目指しているコンサート・イベント業界の中で活躍するイメージを持ち、その社会の中で自分を位置づけ、その中で音響業務を担う為の技術習得を目標とする。音響業界でもライブツアーやホール管理、楽器店など多種多様な進路があり、その志望している業種、企業、職種を自分の適性や関心を結びつけて理解を深めること、そして就職志望する企業、組織で協働する事の重要性を理解できるようになることを目標とする。											
授業方法											
仕込み図や回線表をもとにセッティングを行います。またその作業を反復練習することにより、理解度とスピードを上げていきます。それに必要な知識、技術をゼミも併用して身につけ、グレードにて自己確認します。											
成績評価方法											
試験・課題レポート 平常点	40% 10% 50%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価 理解度を確認するために実施する。 実習時間内に行われる発表方法や内容、積極的な授業参加度、授業態度・出席状況によって評価する。									
履修上の注意											
コンサート・イベント科PA実習室等、にあるPA（音響）機材を使用する。重量物も多くあるので怪我等しない様に安全第一で行う。また機材破損の無いように十分注意する。動きやすいパンツ、靴で臨み、実習ジャンパー、実習Tシャツを着用すること。作業用のグローブの着用、また必要に応じてヘルメットの着用もすること。長髪は結ぶこと。授業時数の4分の3以上出席しない者は、成績評価の対象としない。											
教科書教材											
適時、参考プリント、資料などを配布する。											
回数	授業計画										
第1回	1 年次復習 / オンライン動画視聴、および実践的、セッティング反復練習し、技術を確認、理解する										
第2回	実践的PA機材研究 / オンライン動画視聴、ラインアレイ研究、デジタル卓、デジタルネットワーク（DANTE）研究										
第3回	楽器研究 1 / ドラムキットの組立と、マイクアレンジを習得する										
第4回	楽器研究 2 / 楽器電源の取り方、ベースアンプ、ギターアンプのマイクアレンジを習得する										
第5回	ライブ実習 1 / 他コース合同コラボレーション実習 制作準備（ライブ実習形式）を行う										
第6回	ライブ実習 2 / 他コース合同コラボレーション実習 本番、撤収（ライブ実習形式）を行い、作業工程を理解する										

2021年度 日本工学院専門学校	
コンサートイベント科	
コンサートプロダクト3 (PA)	
第7回	ライブ実習3 / 新入生歓迎ライブ 制作準備（プランニング、仕込み、チューニング、オペレート練習）を行う
第8回	ライブ実習4 / 新入生歓迎ライブ 本番、撤収、舞台音響の作業工程を理解する
第9回	楽器研究3 / 鍵盤楽器、キーボード、D I 接続について研究する
第10回	楽器研究4 / 各種パーカッションのマイクアレンジ、弦楽器チューニングを習得する
第11回	学外ホール実習1 / 学外ホール実習 制作準備（プランニング、仕込み、オペレート、チューニング練習）を行う
第12回	学外ホール実習2 / 学外ホール実習 制作準備（リハーサル、セッティング模擬）を行う
第13回	学外ホール実習3 / 学外ホール実習 本番にて、作業工程を理解する
第14回	学外ホール実習4 / 学外ホール実習の反省と検証し、次回へ向けて課題確認する
第15回	グレード試験 / グレード試験 対策実習。実技試験を通じて、習得できた技術を確認する

2021年度 日本工学院専門学校											
コンサートイベント科											
コンサートプロダクト3（照明）											
対象	2 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	270	単位	9
担当教員	島立 麦人			実務経験	有	職種	パンケット照明				
授業概要											
1年次に学んだ舞台照明の基礎知識と技術を踏まえてより実践的な内容を学ぶ。昨今のコンサート業界で実際に用いられている機材に学内で触れることで、コンサートの現場へ就職した際に対応できる能力を身に付ける。学内外の施設を有効活用し、整った環境の中で舞台照明に必要な正しい技術の向上を図る。授業のアーカイブ化を実施することで、学内で学んだ内容を自宅で復習できる環境を提供する。											
到達目標											
以下の3つを習得することが目的 1. 照明機材の内部構造を理解しメンテナンスや修理ができる程度の技術を身に付ける。 2. ライティングデザインや本番実習を繰り返し経験することでコンサート全体の仕事を理解し、一つのイベントを学生のみ力で作りあげる。 3. 年間の実習を通してコンサート業界で働く姿勢を身に付け、卒業後に業界内で活躍できる人材を育成することを最終目標とする。											
授業方法											
○対面授業 1. 学内外の施設を活用しライブハウスやホールでのイベントを想定した準備～仕込み～本番～バラシまでの作業を実践的に学ぶ。 2. 色彩理論やライティングデザイン、安全衛生法等の必要知識を学ぶ講義形式の授業を実施。 ○オンライン授業 1. 1年次の授業内容をアーカイブ動画を活用して復習する。 2. 2年次の授業内容をアーカイブ動画を活用して復習する。											
成績評価方法											
授業出席率 50% 遅刻、早退、欠席を含む出席率で評価。（公欠は例外とする） 提出課題 20% 定期的な課題の提出率、提出内容で評価。 グレート試験 20% 試験の可否、 授業成果 10% 授業への取り組む姿勢を評価											
履修上の注意											
安全第一で授業を実施。重量物や昇降物がある為、声を出すことが非常に大切になる。照明スタッフは高所に上がることもあり。理由のない遅刻や欠席は認めない。挨拶をしっかりと行うことが大切。 グレート試験や小テストを行い理解度を確認する。 携帯電話は使用禁止。教室内は機材がある為、飲食は禁止とする。授業時数の4分3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
○舞台・テレビジョン照明：テキストを基に資料を作成。授業内で学生へ配布 ○ステージ・PA・照明用語辞典：毎回の授業で活用 ○オンライン授業動画：自宅での復習に活用											
回数	授業計画										
第1回	1年次の復習実習（仕込み・シュート・ピンスポット） 目標：仕込みからシュートまでの手順を時間内に終えることができる。ピンスポットの扱い方を再確認する。										
第2回	3Dシミュレーションソフトについての講義 目標：3Dシミュレーションソフトの知識を学び、操作方法を習得する。										
第3回	照明操作卓についての講義 目標：照明操作卓の操作手順を学びデータのプログラミングができる。										
第4回	仕込み図面についての講義 目標：ライブハウスやホールでの仕込みを実施するための図面を作成できるようになる。										
第5回	学内ライブ実習①(仕込み、シュート) 目標：限られた時間内で仕込み、シュート作業を終える。										
第6回	学内ライブ実習②(資料作成) 目標：ライブの本番実習に向けての仕込み図やフェーダー表等の資料作成を学び、完成させる。										

2021年度 日本工学院専門学校	
コンサートイベント科	
コンサートプロダクト3（照明）	
第7回	学内ライブ実習③(テクニカルリハーサル、リハーサル) 目標：テクリハ、リハーサルを通して、ライティングデザインの修正、最終調整を行い本番に備える。
第8回	学内ライブ実習④(本番実習) 目標：本番、バラシ作業を通して担当セクションのスキルアップを目指す。
第9回	照明操作卓についての講義 目標：音楽に対してどのように照明演出をデザインするか、講義形式の授業を通して正しい知識を身に付ける。
第10回	学外ライブ実習①(資料作成、施設調査) 目標：学外施設を使用しての実習を通し、より現場に近い環境で技術を向上させる。その為の仕込図の作成、ホール資料の見方を理解し資料作成を完成させる。
第11回	学外ライブ実習②(ライティングデザイン) 照明卓を使用した明かり作り実習を通してムービングライトのライティングデザインを学び、理解する。
第12回	学外ライブ実習③(テクニカルリハーサル、リハーサル) 目標：テクリハ、リハーサルを通して、ライティングデザインの修正、最終調整を行い本番に備える。使い慣れない施設のなかでの明かりの修正作業を身に付ける。
第13回	学外ライブ実習④(本番実習) 目標：本番、バラシ作業を通して担当セクションのスキルアップを目指す。有観客でのイベント実施を通して学生たちの責任感や達成感を体験させる。
第14回	学外ライブ実習⑤(反省会) 目標：学外ライブ実習の映像を基に照明的観点から反省と検証を行い、次の取り組み方を考察する。
第15回	前期総括ミーティング、前期総復習 目標：前期の総括を行い、振り返る。前期で習得した知識と技術を再確認し、不明点があればコース全体で確認を行う。

2021年度 日本工学院専門学校											
コンサートイベント科											
コンサートプロダクト3（舞台）											
対象	2 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	270	単位	9
担当教員	山下顕治			実務経験	無	職種					
授業概要											
1 年次で進めてきた実習内容のクリエイティビティの向上、それらを形にするための作業の精度を高めることとスピードアップを図ることを目的とします。学内実習では許容されていた時間配分、作業速度、完成度を反復練習をすることで、それぞれのスキルアップを図ります。また他セクションとのコミュニケーションを円滑にするために、ミーティングや作業を通じて、必要なスキルを様々なツールの操作技術をあげていきます。図面、タイムテーブル、進行表、道具帳、部材リスト、作業行程表、などへの、コンサートのプランニングやデザイン、アーティストの意向を正確に落とし込むことで、作業の効率化を図り、それを有効利用することで、コミュニケーション能力とチームワーク、更には人間力の向上を目的とします。											
到達目標											
新入生歓迎ライブ、サマーライブと、観客の層をより広げたものを意識したコンサートの成功を目指します。本番のクオリティだけではなく、アイデアを出し合うブレンストーミング、デザインや演出内容の判断基準、美術セットなどの製作課程の精度とスピード、特殊効果や映像などの新しい演出アイテムの導入の仕方と、実際のプログラムやオペレーション等、初の校外実習となるサマーライブにおいて、学内でのルールではなく、学外のルールに適用する技術とスピード、学内の観客だけではなく一般の観客にも伝わる完成度を目指します。その成功の為に必要な責任感、成功から得られる達成感を就職活動においていかに発揮することで、個人の目標である就職を勝ち取ることを目標とします。											
授業方法											
1 年次で進めてきた実習内容のクリエイティビティの向上、それらを形にするための作業の精度を高めることとスピードアップを図るために、学内実習では許容されていた時間配分、作業速度、完成度を反復練習をすることで、それぞれのスキルアップを図ります。また他セクションとのコミュニケーションを円滑にするために、ミーティングや作業を通じて、必要なスキルを様々なツールの操作技術をあげていきます。図面、タイムテーブル、進行表、道具帳、部材リスト、作業行程表、などへの、コンサートのプランニングやデザイン、アーティストの意向を正確に落とし込むことで、作業の効率化を図り、それを有効利用することで、コミュニケーション能力とチームワークの向上を図ります。											
成績評価方法											
試験・課題	5% グレード実技試験（グループ）グループでの作業手順の習得度とチームワーク貢献度を確認します										
小テスト	5% グレード筆記試験を実施。手段や手法、必要資料の作成を通じての習得度を確認します										
レポート	5% 実施したコンサートを振り返り、その製作過程と結果から得たもの、感じたものが内容となります										
成果発表 (口頭・実技)	5% 提示したアイデアや実作業におけるリーダーシップの発揮などは積極的な加点評価となります										
平常点	80% 出席点を評価します。スキルがあっても、欠席や遅刻があっては自分の実力は発揮できません										
履修上の注意											
仕込、リハーサル、本番に向けて、それぞれの局面における更新、変更事項に対する資料の修正、改善などをしていくのは、必須となります。その際のパフォーマンスのクオリティ、それらを各セクションで共有する手段と伝達方法は、作成するコンサートによって最善の方法が違ってきます。またデザインアイデアなどは、様々なコンサートを参考にできるように、常日頃の自主学習（アイデアの収集）は欠かせません。授業時数の4分の3以上出席しない者は単位を取得することが出来ない。											
Vector Works 2019 Student edition microsoft office（特にExcel） google driveなど											
回数	授業計画										
第1回	1 年次の復習 資料作成 / タイムテーブル、進行表、図面の作成することで、Excel Vectorworksの復習を目的とする										
第2回	1 年次の復習 イントレ作業 / 照明コースと合同でイントレ仕込みの復習とスキルアップを目的とする										
第3回	新入生歓迎ライブ準備① / タイムテーブル、進行表、図面を仮組を元に修正、決定したステージセットに必要なアイテムを製作										
第4回	新入生歓迎ライブ準備② / デザインアイデアの仮組 作業状態の確認、ステージセットデザインの決定										
第5回	新入生歓迎ライブ準備③ / リハーサル 照明、音響とともに仕込、出演者ありでのリハーサル。本番の成功に向けた修正										
第6回	新入生歓迎ライブ本番 / 片柳アリーナにて実施されるミュージックカレッジ新入生歓迎ライブの本番の仕込、本番、撤収										

2021年度 日本工学院専門学校	
コンサートイベント科	
コンサートプロダクト3（舞台）	
第7回	Vector Works 2020 講座⑤ / 道具帳を作成することで、さらに多くのツールの使用目的と使い方を習得する
第8回	Vector Works 2021 講座⑥ / 3Dを作成することで、平面、正面、側面、三方向からイメージできることを目的とする
第9回	特殊効果 / 演出に特殊効果を組み込むための特殊効果のデモンストレーションと仕込
第10回	サマーライブ1, 2 準備① / デザインアイディア、タイムテーブル、進行表、図面のブラッシュアップ
第11回	サマーライブ1, 2 準備② / デザインアイディアの仮組 作業状態や作業手順の確認、ステージセットデザインの決定
第12回	サマーライブ1, 2 準備③ / タイムテーブル、進行表、図面を仮組を元に修正、決定したステージセットに必要なアイテムを製作
第13回	サマーライブ1, 2 準備④ / 照明、音響とともにテクニカルリハーサル、出演者を加えてリハーサルを実施。本番に向けて修正
第14回	サマーライブ1 本番 / サマーライブ①本番
第15回	サマーライブ2 本番 / サマーライブ②本番

2021年度 日本工学院専門学校											
コンサートイベント科											
コンサートプロダクト3(企画)											
対象	2 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	270	単位	9
担当教員	田中朋子			実務 経験	有	職種	イベント企画				
授業概要											
イベント企画制作における知識スキルの習得・実地経験を通してコンサート・イベント業界への就職を目指す。 また変化の激しい時代の中で、イベントを行うためのスキルだけではなく、イベントの根本的な目的が、目的を達成するための手段であるという認識を学生全員が常に持ち、マーケティングの角度からもイベント制作に携わることができるようにする。 本実習を通し、様々な課題に直面し、失敗や成功経験を重ねることで、時代を生き抜く力を付ける。											
到達目標											
◆イベント制作における企画制作宣伝運営能力を身に付ける。 ◆ハイブリッドイベント(リアル・配信)へも対応できるようになる。 ◆マーケティング能力・知識を身に付ける。 ◆映像制作を通して、オープニング・エンディング・ジングル・プロモーションなどあらゆる映像制作における能力を身に付ける。											
授業方法											
イベント企画制作を実地経験を通し実習を行う 実習では、常にPCやあらゆるソフトアプリを使い時代に応じた情報伝達を行う 実地経験のためにインターンシップも取り入れながら経験値を付けさせる											
成績評価方法											
試験・課題 レポート 平常点	40% 10% 50%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価 理解度を確認するために実施する。 実習時間内に行われる発表方法や内容、積極的な授業参加度、授業態度・出席状況によって評価する。									
履修上の注意											
イベント開催の際には、一部の学生に作業と責任が集中することの無いよう、全体的にを把握することを心がけ、偏りや最崩しが出ないよう配慮する。 運営中、柵や看板など多くの備品を運ぶため、怪我をしないように十分注意する。PCで扱うイラストレーター、無料映像ソフトも活用する。イベント企画・制作・宣伝・運営の中で、どの職種を目指したいのか進路を明確にし、企業・組織で協働することの重要性を理解できるようになることを目標とする。											
教科書教材											
適時、参考プリント、資料などを配布する。											
回数	授業計画										
第1回	2年次オリエンテーション・1年次の反省・2年次の課題設定・就職活動における目標立て										
第2回	社会人基礎力を身に付け進路の方向性を定める（自己分析含む）										
第3回	新入生歓迎ライブ・新入生歓迎レクリエーションの企画										
第4回	新入生歓迎ライブ・新入生歓迎レクリエーションの制作										
第5回	新入生歓迎ライブ・新入生歓迎レクリエーションの制作										
第6回	新入生歓迎ライブ・新入生歓迎レクリエーションの当日施行・設営・運営・進行										

2021年度 日本工学院専門学校	
コンサートイベント科	
コンサートプロダクト3(企画)	
第7回	映像制作&マーケティング実習 オリエンテーション・ソフト下準備など（ダビンチリゾルプ）
第8回	映像制作&マーケティング実習 サンプルを完全にコピーしながら映像制作を学ぶ
第9回	映像制作&マーケティング実習 基礎的映像制作スキルを用いて数パターンロープレ形式で練習
第10回	映像制作&マーケティング実習 オープニング動画を作る・イベント中に使用するジングルを作る
第11回	映像制作&マーケティング実習 Twitter/InstagramなどSNSマーケティングについて学ぶ
第12回	映像制作&マーケティング実習 YouTubeマーケティングについて学ぶ
第13回	映像制作&マーケティング実習 映像制作・マーケティング能力を活用し、テーマに則った映像コンテンツを企画立案
第14回	映像制作&マーケティング実習 各々で納品日に対して制作
第15回	映像制作&マーケティング実習 各々で納品日に対して制作・完成後は映像コンテンツの発表